未来につながる一歩を 少しずつ積み重ねていこう

小さな活動を大切にしながら、交流を深めることが「まちづくり」につながる

熊本高等専門学校
博士　磯田 節子 さん

専門は「都市計画」。建築社会デザイン工学科で特命客員教授を務める。一級建築士。小川町商店街に解体直前だった「綿屋」を借りて、事務所を構えている。苅萱会のアドバイザーとして「まちづくり」の助言を行う。

残すべきもの

県内でもこのように立派な町家が残る町並みはめずらしい。よほど栄えたのでしょう。都市計画の観点から見ると、良い町並みにはいろいろな時代の建物が適当に混ざり合っていることが大事です。

チェコの首都プラハには700年前の古い建物が残ります。建物には、歴史や文化が刻み込まれ、かの地では安易に現代建築に建て替えることをしません。昔のものを大切にすることは、彼らにとっては民族の誇りを守ることそのものなんです。

町家を壊すのは、これまでの文化を壊してしまうのと同じこと。熊本地震で被災した時には解体を防ごうと、学生だった坂田君と町家の被害を調べ、有識者を招いて地域の皆さんと話し合いを重ねました。ここはかつての中心的存在。失われていくのを見過ごすことはできなかったんです。

町並みを保存しながら

解体されてしまった建物もありますが、残った町家はグループ補助金などを活用して修復され、よみがえってきています。

これから苅萱会の活動を契機に「まちづくり」の一つのカタチになっていくことが期待されます。例えば「かるかや市」で地域の人たちが楽しむ。一人でも家から外に出て、来訪者と交流する。そんな小さな出来事を大事にしながら活動することが未来につながるのではないでしょうか。

エピローグ　ゆっくりじっくりと

「みんなが特技を生かして町に出るきっかけを作りたい」「道の真ん中に桜を植えたい」「人の温かさが伝わる町に」――みんな意見はバラバラなんですが、この町を良くしたいという共通の思いがあるんです。それでもまとまりはないんですけどね（笑）。言い換えれば多様性があるということでしょうか。坂田さんは笑顔を見せる。

――自分たちが楽しいと思えることを、背伸びせずにちょっとずつ、できることをプラスしていく。ただし熱が入り過ぎないように。あくまで日常の延長となるように。この町の適温を保ちながら、少しずつ楽しい町にしていきたい。

ここは歴史が息づく町。小川商人の遺伝子は今もこの地で生き続けている。ここでの活動は、少しずつみんなのヨリドコロとなり、歩きたくなる通りとなり、これからも続いていく。新しい出会いを生みながら――。

四季折々の顔をのぞかせる「かるかや市」。地域の歴史を感じながら、言葉を交わし、ほっこりする。
体験プログラムを楽しんだ後には、地域の特産や手作りの味で一休み。
ゆっくり、のんびりと町歩きをしませんか。

「かるかや市」へ行こう

Q. 今、一押しのイベントって何？

A. 新店が続々登場する「かるかや市」

人やモノとの新しい出会いと交流の場として、3カ月に一回開いている「かるかや市」。

ワークショップや雑貨、うまかもんが集まります。

とき　11月24日㈰ 11時～16時

ところ　風の館 塩屋・新麹屋周辺

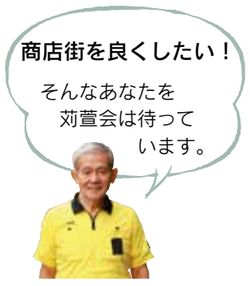
出店者募集　野菜や手作りの品以外にも、自分の特技を生かした体験教室を開きたい人も大歓迎。

申込期限　10月11日㈮

出店料　1000円

申込先　☎(43)0070（苅萱会・安井）

✉karukayaichi@gmail.com



問 苅萱会 安井
☎43-0070